

子どもたちを笑顔にするためイベントに出動

活動地域（埼玉県戸田市）

男性のプロフィール

氏名：竹田 繁紀さん

年齢層：中高年層（40～50 歳代）

活動概要：埼京戦隊ドテレンジャーのメンバーとして、子どもたちの健全育成を目的とした同団体の活動に関わる。平成 23 年 4 月から代表を務めている。

活動開始のきっかけ

子どもの笑顔が見たくてメンバー募集に応募

私が、現在居住する戸田市に来たのは第一子である長男が生まれた翌月なので、今から 10 年前になります。私たち夫婦はともに地方出身者ですが、3 人の子どもたちにとってはこの町が地元になります。子どもたちのためにも地域社会とのつながりを作りたいという思いはあったのですが、これといったきっかけがないまま 5～6 年の年月が過ぎました。

そのようなとき、市の広報に掲載されていた「埼京戦隊ドテレンジャーメンバー募集」の記事を目にしたのです。10 代のころに着ぐるみショーでアルバイトをしたことがあり、その時の経験が楽しかったことと、学生時代、また、自衛官時代に空手をしていたので、アクションシーンに対応できること、そして、子ども好きだったことなどの理由から、メンバーの一員となりました。

活動を始めたきっかけは、「世のため人のため」というよりは、「自分自身や家族のため」に地域社会とのつながりをつくることであつたと思います。そして、自分たちが楽しみながらする行いが人様のお役に立てるならば、こんな良いことはないと感じたのです。

当初はただの一メンバーで、責任もなく、自分の予定を優先しながら、気楽に、楽しく活動していました。しかし、中心で指揮をとっていた事務局長が遠方に転居することになり、平成 22 年の春から、私は後任を任され、グループを統括する立場となりました。メンバーだけでなく、依頼者や自治体それぞれの利害を調整し、なおかつ中長期的視野でグループ活動を展開していかなくてはなりません。やりがいはありますが、責任とプレッシャーも強く感じました。

活動の内容

子どもたちを喜ばせるため、幼児対象のヒーローショーをメインに活動

我々、埼京戦隊ドテレンジャーは、平成 14 年から、戸田市内の幼児を対象としたヒーローショーをメインに活動しています。子どもたちに憧れた TV ヒーローになって自分たち大人が楽しむというよりは、子どもたちに喜んでもらうことが目的です。我々はスポンサーやバックアップの組織を持たず、純粋な有志が活動しています。

活動数は年々増え、近年では年間 15～20 回程度のショーを実施しています。特に、夏祭り・秋のイベントシーズン・クリスマスなどには依頼が多く来ます。ショーでは、子どもたちに楽しんでもらうと同時に、「イジメ撲滅」「早寝早起き」「交通安全」などのメッセージも送るようにしています。また、グループキャラクターの知名度が向上してからは、地域のお祭りの盛り上げ役をするなど町おこし的な活動も増えてきました。



地域貢献の実感、周りからの応援が喜び

地域の中で自分たちがオンリーワンの存在として役立っていると感じられることは大きな喜びです。友人・知人も増え、応援してくれる方がたくさんいることも喜びの1つです。

地域活動に初めて飛び込むときには、誰もが不安を感じると思います。しかし、どんなことでも行動を起こす以上、リスクはつきものです。また、活動を始めても、周囲の人たちに受け入れてもらえるまでには多少の時間がかかります。その間、時には不快な思いをすることもあるかもしれません。しかし、それは何かを始める上で避けては通れない道ですし、それを嫌がっては何もできないと思います。

私の経験を通していえることは、とにかく一度参加してみて、「自分に合いそうだ」という感触があれば、「1年間は下積み期間」という気持ちでスタートしてみるのがよいと思います。チャレンジしてみる価値は大きいと思います。

周囲との関わり

「ヒーロー」というテーマから、家族ぐるみで活動がしやすい

妻は活動に協力的で、子どもたちもヒーローが大好きな年頃なので、常に家族そろっての活動となっています。友人も何人が勧誘した結果、活動に協力してくれています。

また、自治体とは様々な面で良好な関係にあると思います。市から活動をサポートする補助金が2年にわたり認められ、備品や機器、グッズやプレゼント商品などの充実を図ることもできました。また、メンバー募集の声かけや広告などの面でも自治体の協力・支援が得られています。

直面した課題と解決方法

とにかく働きかけることでメンバー不足を解消

慢性的なメンバー不足は、常に悩みの種です。一定の人数を必要とする活動内容だからです。以前は依頼予定日の参加状況が悪ければ依頼をお断りしていましたが、最近では断れない状況も多々あり、悩みの種となっています。地道な声かけや広報誌の募集記事掲載など、同じことの繰り返しとなりますが、とにかく働きかけること、これしかないと考えています。

また、人間関係におけるトラブルも何度か発生しています。メンバーによって意欲に温度差があることや考え方の相違など、様々な理由から活動から去っていくメンバーもいますが、ある程度は仕方がないと考えています。ただ、ボランティアとはいえグループを預かるリーダーは、明確な一定の方向性を示す必要があると思います。また、何かを決断するときは色々な意見があるため、全員を満足させることはできませんが、時には非難を受けても自らの信念に従って、行動することが必要と考えています。

これからの展望

10年後も今と同等以上のレベルで活動を継続していく

我々の活動はすでに地域社会において、一定の役割と責任を担っていると受け止めております。今後は長期的なビジョンを持ち、「活動」と「キャラクター（ブランド）」を継承していくシステムを作ることや後継者の育成などを目指し、その責任を果たしていきたいと考えています。

現在の目標を一言でいえば、「子どもたちに喜んでもらいながら、10年後も今と同等以上のレベルで活動を継続していること」です。